

地域教育懇談会だより

郡山市教育委員会

令和6年11月6日(水)

大島地区「地域教育懇談会」を開催しました

大島地区「地域教育懇談会」を10月23日(水)午後6時30分から大島地域公民館で開催しました。大島小学校、郡山第五中学校、鉄道弘済会郡山保育所、エムポリウム並木保育園、つばさ保育園、あい・サポ文助保育園の保護者や教職員、地域の皆様など、約50名の参加がありました。

前半は、小野義明教育長のあいさつに続き、教育委員会事務局職員が、本市の教育施策について説明しました。

後半はPTA役員の皆様の司会のもと、学校・地域・教育委員会による熱心なグループ協議が行われました。

グループ協議

各課、各センターにおける教育施策の説明

学校教育推進課

1人1台タブレット端末を活用した授業の推進、デジタル新聞の活用促進、自他の生命(いのち)を大切にする教育の充実、「安心・安全」に向けた地域との連携等

学校管理課

体力向上のための学校体育の充実、コミュニティ・スクール、働き方改革、部活動等の在り方に関する指針、部活動の地域移行等

教育研修センター

教職員研修の推進、ICTを活用できる環境の充実、オンライン学習教材の活用、情報モラル教育の充実等

総合教育支援センター

不登校児童生徒への支援、心身の健康状態を可視化するツールの活用、いじめ問題や虐待等の対応に向けた体制の整備等

後半のグループ協議では、地区内の小・中学校を代表して、郡山第五中学校長から現在の小中学校の現状、小中連携を中心に話していただいた後、3つのグループに分かれ、様々な立場、視点からの活発な意見交換が行われました。

地区内小・中学校による話題提供

【郡山第五中学校 小山校長】

- SNSとの向き合い方について〈A・Bグループ〉
- 地域における安全教育について〈C・Dグループ〉
- 学力向上、小中連携教育について〈E・Fグループ〉



地域の皆様から御意見をたくさんいただきました！

<A・Bグループ>

- ・コロナ禍を経てSNSでのつながりが広範囲になり、問題が増えている。警察との連携が必要である。
- ・2歳児で、すでにスマホに興味をもち、夜遅くまで映像等を見ているため、寝不足で朝やっと思きで登園している。
- ・ICTの良さを生かしながらも、家庭でのルールづくりが大切。保護者への啓発をどのように進めていくかが課題。
- ・スマホを持たせるときのルール(時間・使い方)を決め、親も一緒にルールを守ることが大切。
- ・SNSと上手に向き合うために情報モラル教育をしっかり行いたい。
- ・子ども自身がSNSの危険性を認識できていない。

<C・Dグループ>

- ・見守り隊として、登校時に子どもたちと一緒に歩き、通学路の点検を行っている。
- ・下校時の不審者に不安を感じている。110番の家等、地域ぐるみで防犯意識を高めたい。
- ・道路は狭いのに通行量が多い。カーブミラーの不備もあり、3、4年前から市に要望している。
- ・下を向いて歩いている子どもが多くなっている。あいさつの声も小さい。人と人とのつながりが弱くなっている。
- ・集団登校で遅れて歩いている子どもや引き返す子どもが心配である。
- ・散歩時の危険箇所は園内で情報共有している。

<E・Fグループ>

- ・タブレット端末の授業支援アプリやオンライン学習教材を効果的に活用している。
- ・子どもを育む基本をしっかりと積み上げていきたい。保育から教育に移行する中で、個別教育も重要である。
- ・オンライン学習教材の進捗状況を親もチェックできるとよい。
- ・タブレット端末を活用することにより、学び直しが容易になっている。
- ・中学生と小学生の交流の機会がほしい。
- ・スマホが子守に使われることで、幼い子どもスマホ依存になっている。親の関わりを増やす必要があるのではないか。

➡ グループ協議では、貴重な御意見をたくさんいただくことができました。今回の地域教育懇談会がきっかけとなり、学校・家庭・地域の連携がますます図られますよう、今後も御協力をよろしくお願いいたします。